

子どもの安全意識を高めるための塗り絵教材の開発的研究

伊東 知之・大野木 裕明・石川 昭義
仁愛大学人間生活学部

A developmental study of coloring materials to enhance the children's safety awareness

Tomoyuki ITO, Hiroaki OHNOGI and Akiyoshi ISHIKAWA

Faculty of Human Life, Jin-ai University

子どもの事故防止策を構築するために、現職の保育・幼児教育者 95 名から得た事故直前のヒヤリハット場面を要約整理し、40 場面の描画を塗り絵教材用として作成した。そして、それを別の保育・教育現職者 123 名に依頼し、どれが適切であるかの判断を求めた。同時に、その描画を使って安全指導をする時の解説用シナリオの作成も依頼した。選択回答の多かった上位 11 場面について、得られた解説用シナリオの内容の特徴を検討しながらプロトタイプを抽出して、塗り絵教材としての可能性を探求した。

キーワード：塗り絵教材 子どもの事故防止 ヒヤリハット認知

問題と目的

子どもの重大事故発生には、大きくは人的な要因と環境的な要因とが関わる。我々は保育士や幼稚園教諭といった幼児教育者を大学段階で養成する立場から、主として人的要因すなわち保育・教育者のヒヤリハット認知能力や危険感受性に着目して以下の 2 つの方向を見据えた検討を重ねている。

その 1 つは、現職者と志望大学生の質的・量的な職能の異同に関する検討である。石川他(2009)では、現職者の保育・教育経験によるヒヤリハット認知の発生頻度の違い、あるいは現職者から実習学生への指導助言の内容を実態調査や意識調査によってまとめた。また、田中・石井(2003)が作成した重大事故そのものの発生場面の一覧表と、我々が調査した事故直前のヒヤリハット場面との照合を行って、ヒヤリハット場面と事故発生との時系列的な因果関係の認知が安全意識に関わることを議論した。大野木他(2011)では、場面想定法を用いることによって現職者と実習学生との間のヒヤリハット認知を比較検討し、大学生段階でのヒヤリハット認知能力や危険感受性の質が現職者のそれとどう違うのか、何が実習学生と現職者で類似し

ているかを明らかにしようとした。続いての大野木他(2013)では、大学 4 年間の教育に焦点を当てて、大学在学の 1 年生から 4 年生までの横断的な学年間比較を行って、ヒヤリハット認知得点のみちすじを学年差によってたどった。以上は、新人・志望大学生と熟達した現職者間の量的・質的な職能の異同を明らかにし、それを踏まえて大学での養成プログラムに反映させようとする基礎資料である。

もう 1 つは現場介入的なアプローチと関わる。伊東他(2012)では、保育・教育あるいは志望大学生が備えるべき危険感受性を高めて具体的な場面で働くヒヤリハット認知能力を育成するため、実習学生用としてヒヤリハット認知教材(2012 年版)を作成した。本研究は、このような流れの中で当事者である幼児用の塗り絵教材を開発し、子どもたちと保育・教育現職者における危険感受性やヒヤリハット認知を高めるための養成・研修ツールを開発することを目的としている。

有名なハインリッヒの法則(Heinrich, Petersen, & Roos, 1980)が示唆するように、職場の安全管理に果たす危険予知訓練の必要性は、他の職場領域でも重要視されている。例えば看護教育の領域では、川村

(2003),川島(2007),兵藤(2007)のようにヒヤリハット場面の事例集や, それに基づく自己点検や教育・研修が報告され, 全国的に共有化されようとしている. おそらく幼児教育においてもこのような重要性は変わらないだろう. 園内という限られた現場のハウツーに留まることなく, これまでになされている小児医学的なケースの共有化(田中,2006)と同様, 保育・幼児教育の領域においても汎用的な知見が必要と考える.

方法

1. 描画の作成と使用のねらい:

2013年8月に実施した現職の幼稚園教諭と保育士を対象とする幼児教育の研修会の参加者95名に対して, 子どもの事故発生前のヒヤリハットする場面を自由記述してもらうように求めた. 結果としてそれらの場面を要約すると80場面が得られた. 今回はそのうち任意に40場面を選びA4版サイズで描画化した. 描画は2枚すなわち場面A(事故や怪我の発生前のヒヤリハットする事前場面)と場面B(その後に事故や怪我の発生した事後場面)の対であり, 研究者のうちの1名(伊東)が塗り絵教材用に作成した. これらの中で, どの描画場面が子ども自身の危険感受性を育成するために適切な教材になりうるかについて, その判断を現職者に尋ねることとした.

2. 調査日:2014年8月5日,6日

3. 回答協力者:幼児教育に関する研修会「教育現場の質をより高めるために」に参加した現職の保育士と幼稚園教諭の合計125名. 回答の不備を除いた123名の回答を後の集計の対象とした.

4. 調査手続:

40場面から無作為に4場面を選び, それを2×2に配置してA3用紙1枚に複写した. この各場面には事前場面Aのみを用いた. 回答協力者はこのランダムに配布された1枚(4場面)の中から現場で最も指導が必要と判断する場面を1場面選び, この絵を塗り絵教材として使用する時の, (1)自分で考えたその場面のタイトル, (2)その場面を使って子どもに事故防止のための注意喚起をする時の指導・助言内容(せりふ, シナリオ)を構想することを求めた. 場面は40

あるので, 1場面あたりの被選択数は最大で12~13となる. 回答は集団に対して行い, 各自個別に所定の用紙に記述することを依頼した. なお, 回答の依頼の直前に, 場面Aと場面B(いわゆる事前事後)の対を40対すべて連続してプロジェクターでQアンドA式に提示し, 各自への依頼内容の周的理解を図っている.

結果

1. 場面の精選

どの場面を何名が選んだか集計したところ, 表1のようになった. 表1には40場面のうちで最低1名でも選択のあった31場面が掲載されている. 表1のタイトルは暫定的に付けたものである. 回答者からまったく選択されなかったのは9場面であり, これらは表1には掲載していない. 場面の番号は通し番号であり, 何かの優先順位を示すものではない.

場面を精選するために, 約半数(6/12ないし6/13)の6件以上を多かった場面の目安として列挙すると, 場面2「プールに近づく」, 場面13「歯磨き中に走る」, 場面23「4人で食事中」, 場面27「座ったイスでブラブラ」, 場面32「水筒を振り回す」, 場面33「ブランコ遊びと傍観」, 場面38「すべり台で向かい合う」の7場面があがった. この採択水準を1つ下げて5件以上とすると, 場面7「傘を持って並ぶ」, 場面16「床にハサミ」, 場面17「集団でなわとび」, 場面21「チャンバラ遊び」の4場面が追加となったので, これを加えた11場面について内容を検討してプロトタイプ的な検討をすることにした.

表1 被選択場面の回答分布

場面番号	「タイトル」	件数
場面2	「プールに近づく」	9
場面3	「積木の上でバンザイ」	4
場面5	「トランポリン」	4
場面6	「プールの中」	1
場面7	「傘を持って並ぶ」	5
場面8	「いすを持って移動」	2
場面9	「縦列散歩」	4
場面10	「机を運ぶ」	3
場面11	「なわとび」	2
場面12	「サッカー遊び」	3
場面13	「歯磨き中に走る」	7
場面16	「床にハサミ」	5
場面17	「集団でなわとび」	5
場面18	「窓枠にぶら下がり」	1
場面19	「乳母車で移動」	2
場面20	「走ってトイレへ直行」	4
場面21	「チャンバラ遊び」	5
場面22	「ボールをキック」	2
場面23	「4人で食事中」	6
場面25	「幼稚園バスの中」	3
場面27	「座ったイスでブラブラ」	9
場面28	「引き出しを開ける」	1
場面29	「平均台の上」	1
場面31	「大勢ですべり台」	2
場面32	「水筒を振り回す」	9
場面33	「ブランコ遊びと傍観」	8
場面35	「お魚を食べる」	3
場面36	「ボールを追って鉄棒へ」	1
場面37	「紙切り作業と傍観」	3
場面38	「すべり台で向かい合う」	8
場面40	「遊具の上でバンザイ」	1

n=123 回答数がゼロの場面は掲載を省略した。

2. 個々の場面の検討

精選した11場面について得られた記述を検討し、場面のタイトルおよび結語を抽出した。それらは一覧表に示し、あわせて典型的な一例を別表に転載した。

タイトルの後に続く「結語」は保育・教育者が塗り

絵教材を使いながら事故防止・安全行為を促す締めくくりの言葉である。「約束だよ」、「一緒に守ろうね」のような言葉は「約束」、危険回避のための「ダメだよ」「～しない」、「して下さい」のような言葉は禁止・指導、絵に留まらず子どもへの実技指導や保育・教育者の示範のような言葉や行為は「示範・実技指導」として分類できたので見出しとして挙げた。ただし、この分類見出しは記述内容の具体度に依存しており、必ずしも厳密なものではない。なお、転載の際には、一部を漢字書きに改めて示した。

2-1. 「場面2 プールに近づく」

図1に場面2を示し、表2-1に回答の一例を示す。表2-2に回答の一覧をまとめる。

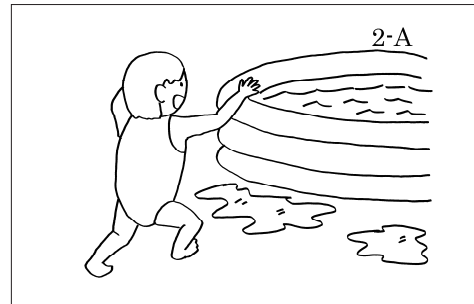


図1

表2-1は内容的にみて非常に典型的な構造を備えている。説明を加えると次のようになる。まず、「プール好きな子？」と聞いて、子どもたちの興味・関心を引きつけている。次に危険があることに気づかせるために、「すぐに走って入りにいったらどうなる？」と問いかけて、転倒することがあり結末が危険であることを気づかせている。次に、危険な結末を回避するためにはどう行動したらいいのかを考えさせている。「そうだね。プールのまわりは水がいっぱい濡れているから走ると滑るね。滑ると怪我をして入れなくなるね。どうするといい？」。子どもたちから得られた望ましい回答「ゆっくり行く。歩いて入る」をすぐに言語的に承認し誉めて、これが適切な安全行為であることを相互に確認している。そして、危険な不適切な行為を禁止し、安全で望ましい行為を勧めている。これを時系列的に箇条書きにすると、おおよそ次のようになる。

1. 子どもの興味・関心を喚起

2. 描画の中の不適切行為への焦点化
3. 引き起こされる危険な結末を予想
4. 「不適切行為→危険な結末」の因果関係の意識化
5. その回避策を立案「不適切行為の禁止（または適切行為の順守）→安全な結末」
6. 回避策の確認（禁止・指導, 約束, 示範・実技指導）

1～6はすべて保育・教育者または子ども自身による活動である。これは典型的なシナリオで、「2. 不適切行為への焦点化」は質問によって注意喚起する場合もあれば、保育・教育者の方が問題提起することもある。「4. 『不適切行為→危険な結末』の因果関係の意識化」は子どもたちとの応答では誘導できない場合もある。その場合には教え込んだり禁止行為だけを強調することも見られた。別の回答例であるが、「血が出る」、「痛い」などの具体的な苦痛を強調する回答も見られた。あるいは、描画を説明・解説したりするだけではなく、保育・教育者が示す模範・実技指導することもあった。最後の「6. 回避策の確認」は、子どもの年齢や性格あるいは保育・教育者—子ども間の普段からの対人的関係をもとに「一緒に約束」、「禁止・指導」、「示範・実技指導」といった手段を選ぶようである。後述して示した場面13の例のように、子どもの理解力不足を念頭に、子どもの反応を引き出すよりもむしろ教え込んで理解を促すような解説に力点が置かれる例も見られた。以上は、場面2「プールに近づく」だけでなく、ほとんどの場面の解説に見られる典型であった。

表2-1 場面2「プールに近づく」に関する回答の一例

タイトル 「プールに早く入りたい」
 「プール好きな子？」
 「は～い」
 「みんな大好きだよ。先生もプール早く入りたいなあ。でも、すぐに走って入りにいったらどうなる？」
 「転ぶー」
 「そうだね。プールのまわりは水がいっぱい濡れているから走ると滑るね。滑ると怪我をして入れなくなるね。どうするといい？」
 「ゆっくり行く。歩いて入るー」

「そうだね。ゆっくり入ってみんな楽しくプール遊びしようね」
 「は～い」

表2-2 場面2「プールに近づく」に関する回答の要約
 （タイトルと結語）

- ①タイトル「プールに早く入りたい」／約束「ゆっくり入ってみんな楽しくプール遊びしようね」
- ②タイトル「プールは楽しい!!…でもね…」／約束「みんなは歩いていこうね！」
- ③タイトル「プールに入る前のお約束」／約束「必ず先生と一緒に入る事。一人では入らない」「この大切なお約束を守って下さい」
- ④タイトル「楽しく水あそびするためのお約束」／約束「プールのまわりは、走らないってお約束しましょうね。」
- ⑤タイトル「わあい。プールだ！」／約束「みんなもこれからプールに入るときは、今日学習したことに気をつけて安全で楽しいプールにしましょうね。」
- ⑥タイトル「すってんころりん 滑らないようにね」／約束「プールサイドは走らない。これは約束だよ。守ろうね」
- ⑦タイトル「プールのまわりでは走らない」／禁止・指導「絶対にプールもまわりでは走らないで下さいね。」
- ⑧タイトル「プールあそびの約束」／約束「準備運動をしっかりとて、走らないで、ゆっくりとプールに入ってくださいね。」
- ⑨タイトル「プールに入る時のお約束」／禁止・指導「走らずにお友だちの後ろを並んで歩いて行こうね」

2-2. 場面7「傘を持って並ぶ」

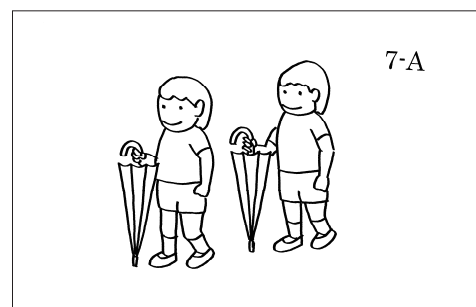


図2

以後は煩雑さを避けるために、場面7「傘を持って並ぶ」(表3-2)のように選択された回答の要約(タイトルと結語)を附表にしてまとめ、ここでは表3-1のような回答例のみを順に示していくことにする。

表3-1 場面7「傘を持って並ぶ」に関する回答の一例
タイトル 「傘は大好きだけど危険もある！」

保：「このお友だちは何かを持ってお散歩です。これ何？」
A：「傘！」
保：「上手に持って歩いています。実はこのお友だちの間で事件が起こります。さて何が起きたのでしょうか？…後ろのお友だちが前のお友だちを追い抜いて、ケンカが始まりました。そしてお友だちが何かで叩いてしまいました。」
B：「わかった！傘で叩いたんや」
保：「当たりです！」「したらダメだけど叩いてしまったのでした。」「叩かれた子、どうなったと思う」
A：「傘が当たって怪我をした！」
保：「その通りです。この傘の中で危ないのはどこでしょうか？」
B：「尖ったところ」
保：「そう。この尖った所をお友だち向いてるとどうなるかな？」
A：「ささる」
保：「そうやね。ケンカもダメやけどお友だちに尖った所を向けると危ないね。」「傘は雨が降ってきたらお空に向かってさしてね」

2-3. 場面13「歯磨き中に走る」



図3

表4-1 場面13「歯磨き中に走る」に関する回答の一例

タイトル 「おっと 危ない ハブラシ君」

歯ブラシを片付けている時のことです。Aちゃんが歯ブラシをくわえてやってきました。

保：「あれ、Aちゃん、歯ブラシ君はどこのお家に入っているのいいかな？」
A：「あ!! コップのお家に入れて運んであげるんだった」
保：「そう!! あたり」絵を見せながら「でも、どうして口に入れたらダメなのかな？」
A：「危ないから」
保：「どうして危ないと思う？」
A：「刺さる」
保：「そうだね。歯ブラシを口に入れたまま歩いたり、走ったりして転ぶと、歯ブラシがノドに刺さって血がいっぱい出るんだよ。絶対に歯ブラシを口にくわえたまま歩いちゃダメだよ。こうやって、歯ブラシはコップに入れて運ぼうね。」

2-4. 場面16「床にハサミ」

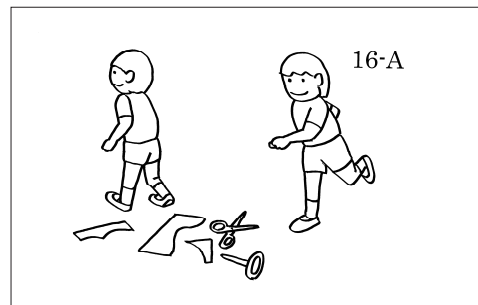


図4

表5-1 場面16「床にハサミ」に関する回答の一例

タイトル 「何か落ちていよ」

子どもに問いかけ、質問形式で展開していく。

先 生「あれっ?何か落ちていよ!!何が落ちていよかな？」
子ども「ハサミ! くぎ!」
先 生「そうだね!お友達が走ってきたけど、踏んだらどうなるかな？」
子ども「怪我する! 血が出る! あぶないよ～」
先 生「じゃあ転んだら？」
子ども「刺さるよ～! いたいよ～」
先 生「そうだねえ。刺さったら痛いよねえ。じゃあどうしたらいいかな？」

子ども「走らない！お片付けする!!」
先生「そっかあ!! じゃあお片付けしようか」

2-5. 場面 17 「集団でなわとび」

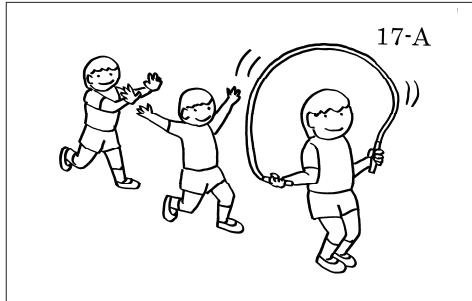


図5

表6-1 場面17「集団でなわとび」に関する回答の一例

タイトル 「なわとびの練習の仕方」

「今日からなわとびの練習を始めたので、休み時間になわとびを使っても良いのだけど、どのようなことに気をつけたらよいか。この絵を見て一緒に考えてみよう。」

「まず一番前にいる子は何をしているかな？」

「なわとび」

「では後ろの2人の子は何をしているかな？」

「追いかけて」

「そうだね。まん中の子がこのまま走っていったらどうなるかな？」

「なわとびに当たる」

「当たるとどう？」

「痛い」

「そうだね。当たると痛いよね。そうならないためにはどうしたらよいか？まず、なわとびをしている子はどうすればよかった？」

「なわとびをする前に、まわりを確認する。なわとびをするのをまわりに伝える」

「広い場所で跳ぶ。なわとびをしていい場所で跳ぶ」

「では、追いかけてこをしていた子はどうすれば良かったかな。」

「なわとびをしている子に近づかない。」

「そうだね、追いかけてこをしていた子もなわとびをしていた子もお互い気を付ける事が大切だね。」

2-6. 場面 21 「チャンバラ遊び」

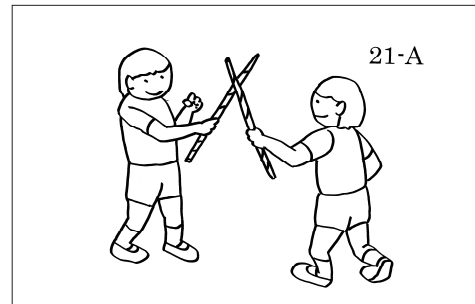


図6

表7-1 場面21「チャンバラ遊び」に関する回答の一例

タイトル 「チラシバトルレンジャー」

T:「さあみんな、絵を見て。何をしているかな」「絵をかざす」

C:「戦い?」「剣を自慢してる」

T:「そうだね。絵のお友達の持っているのは、みんなが大好きなチラシで作った剣! 最初は、「ぼくのすごいでしょ」「いいや、ぼくのもすごいでしょう」と自慢しあっていたけど…あらあらケンカになってきちゃった。何やら剣を振りまわし始めたよ。この剣、振り回すとどう？」

C:「頭ぶつかる!」

T:「そうだね、頭にぶつかったり、あとはお友達のお体のどの部分が危ない？」

C:「目とか?」

T:「そうだね! 剣はお友達の顔に向けないこと。もし目に当たってしまったら見えなくなることもあるよ! 剣は絶対に人にむけない! お約束だね!」

2-7. 場面 23 「4人で食事中」

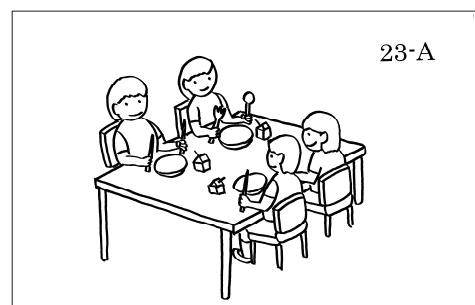


図7

表 8-1. 場面 23 「4人で食事中」に関する回答の一例

タイトル 「楽しい給食」

「これは何の絵かな？ 今から何が始まるかな？」

「楽しみにしていた給食が始まる絵だね。この絵をみて、みんなはどう思う？」

「楽しそうにみんな待っているね。早く食べたくて待ちきれない様子だね」

「でも、こうやって待っているのはどうかな？ スプーンやはしで遊んでいる子がいるね」

「これはどう思うかな？」

「楽しくなって、お友達と戦いごっこが始まってしまうかもしれないね。ふざけていて、それがだんだんお友だちの目や顔などに“チクン”ってささってケガをしてしまうかもしれないね。」

「危ないから、どうやって待っていたらいいかな」

「スプーンやはしは机に置いておいて、手はひざに置いて待っているといいね」

2-8. 場面 27 「座ったイスでブラブラ」

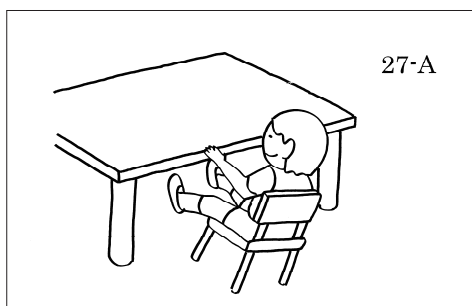


図 8

表 9-1. 場面 27 「座ったイスでブラブラ」に関する回答の一例

タイトル 「おとととと…」

保：「さあーて、この子は今何をしているのでしょうか？」

子：「イスに座っとる！」「なんかこけそう。」

保：「ほんまやなあー、なんか危なそうやなあ。この子どうなるんやろなあ？」

子：「イスから落ちる！」「転ぶ！」「頭打つ！」「血出る！」「救急車に乗る。」

保：「ほんまやなあ。ひっくり返りそうやなあ。頭打ちそうやね。どうしたらいいんやろね。この子に教えてあげる言葉はない？」

子：「ちゃんと座らんとあかんで。」「ちゃんと座っとらんとこけるで。」

保：「その通り！みんなも気をつけよな。」

2-9. 場面 32 「水筒を振り回す」

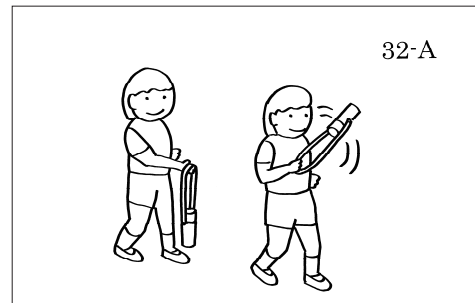


図 9

表 10-1. 場面 32 「水筒を振り回す」に関する回答の一例

タイトル 「ぶんぶんぶんっ」

保：「これは何をしてる絵かな？」

子：「水筒まわしてるー」（3才児の設定）

保：「そうだね！水筒まわしてるね。後ろにもお友だちがいるね。こうして回しているとどうなるかな??」

子：「当たるー」「当たって痛くなるー」

保：「そうだね。ぶんぶん振り回していると後ろのお友だちに当たるかも知れないよね。じゃあ、どうしたらいいのかな？」

子：「手でちゃんと持つ」「首にかける」

※子どもから出て来なければ保育士がここに辿りつくように言葉を捕捉します。

保：「そうだね！手で持ったり、首にかければお友だちに当たらないよね。みんな出来るかな？」

子：「はい!!」

2-10. 場面 33 「ブランコ遊びと傍観」

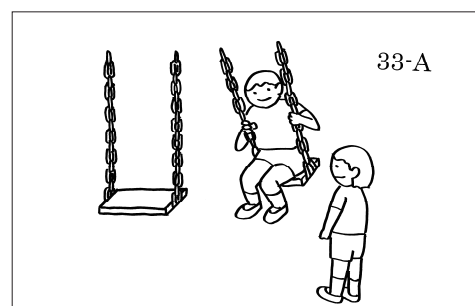


図 10

表 11-1. 場面 33「ブランコ遊びと傍観」に関する回答の一例

タイトル 「ブランコのまわりは危ないよ」

「みんなはブランコでよく遊ぶよね. その時に危ない!! と思ったことはないかな?」

「どういうことがあるかな?」(子どもの反応, 考えを聞く.)

「そうだね. ブランコは急には止まれないね. もしも前や後ろにお友だちがいたらどうかな? ぶつかってケガをしてしまうよね. とても危ないよね.」

「ブランコに乗る時, どんなことに気を付けたらいいかな?」

「ブランコに乗る人は気を付けて乗る.」「順番を守る.」

「ブランコのまわりには行かない」

「そうだね, これからブランコで遊ぶ時は, まわりをよく見て, 急にとび出したりしないように, ブランコに乗る人も待つ人も約束を守って乗ろうね.」

2-11. 場面 38「すべり台で向かい合う」

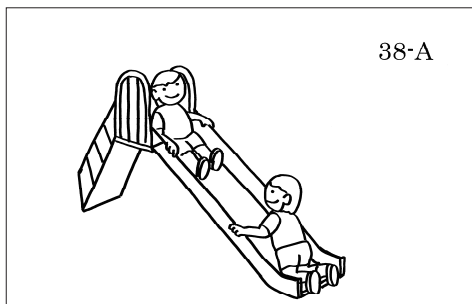


図 11

表 12-1. 場面 38「すべり台で向かい合う」に関する回答の一例

タイトル 「すべり台, 大丈夫かな?」

T「すべり台に, 上にいるお友達と下にいるお友達がいるよね. 大丈夫かな?」

C「? ? ?」

T「上のお友達が降りてきたら, 下のお友達どうなると思う?」

C「下のお友達にぶつかる!」

T「そうだね, 下にお友達がいる時はまだ滑らない方がいいね. じゃ, 下にいるお友達はどうしたらいいのかな?」

C「滑ったらどいてあげるし, 逆さ登りはしないよ」

T「そうだね, 滑ったらすぐにどく, 逆さ登りはしない. お約束が守れば, 怪我をしないよね」

まとめ

ほとんどすべての回答が描画を使った安全教育の目的に沿った記述内容になっていた. すなわち, これらの描画場面が危険感受性や安全意識の高揚に使用できるという判断に基づいた記述内容であったと考えられる. 記述は描画を使って解説しており, 保育・教育者が描画場面を子どもたちに見せながらどのように解説・説明するかが分かりやすくまとめられていた. 得られた解説シナリオは非常に似通っていた. 最初に描画の場面に注目させ, 危険な行為に気づかせ, そこから導かれる危険な結末との間の「不適切な危険行為—事故の結末」という時系列的な関係を理解させ, それに基づいて回避策を説明・指導しようとしていた.

これらを子どもたちに提供し, 塗り絵作業を促すことによって, より注意を喚起することができると考えられよう. しかしながら, そのような実践と評価は次の課題として残されている.

<付 記>

調査に回答いただいた現職保育士・幼稚園教諭の皆さまにお礼申し上げます. また, 本稿をまとめるにあたり日頃よりご助言いただいている西村重稀先生(仁愛大学人間生活学部教授, 仁愛大学キャリア支援センター長), 三和優先生(仁愛女子短期大学教授, 仁愛女子短期大学附属図書館長)に御礼申し上げます.

引用文献

- ハインリッヒほか(1980) 井上威恭(監) 総合安全工学研究所(訳)(1981). 産業災害防止論 海文堂出版 [Heinrich H.W., Petersen, D., & Roos, N. (1980) *Introductory accident prevention*. New York: McGraw Hill.]
- 兵藤好美(2007) 看護学生のヒヤリ・ハット傾向と危険予知トレーニングの実践 看護展望 32 (2), 185-192.
- 石川昭義・大野木裕明・伊東知之(2009) 保育士の

- ヒヤリ・ハット体験 仁愛大学研究紀要(人間生活学部篇) 1, 39-52.
- 伊東知之・大野木裕明・石川昭義(2012) 保育実習生のヒヤリハット認知を高める教材開発研究 仁愛大学研究紀要(人間生活学部篇) 4, 39-52.
- 川村治子(2003) ヒヤリハット 11000 事例によるエラーマップ完全本 医学書院
- 川島みどり(監)(2007) 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 医学書院
- 大野木裕明・石川昭義・伊東知之(2011) 保育士・幼稚園教諭・学生による事故防止策の評価—事故場面へのヒヤリハット認知— 仁愛大学研究紀要(人間生活学部篇) 3, 49-62.
- 大野木裕明・伊東知之・石川昭義(2013) 子どもの危険な行為 24 場面に対する大学生のヒヤリハット認知の学年差 仁愛大学研究紀要(人間生活学部篇) 5, 73-80.
- 田中哲郎(2006) 保育園における危険予知トレーニング事故を防ぐリスク感性を磨くための— 日本小児医事出版社
- 田中哲郎・石井博子(2003. すぐ役立つ救急ハンドブック 学習研究社 (Pp.148-152)

附 表

表 3-2 場面 7「傘を持って並ぶ」に関する回答の要約(タイトルと結語)

- ①タイトル「傘は大好きだけど危険もある！」／禁止・指導「そうやね. ケンカもダメやけどお友だちに尖った所を向けると危ないね.」「傘は雨が降ってきたらお空に向かってさしてね」
- ②タイトル「パッと開いたら凶器だよ」／禁止・指導「前に人がいたら, 少し離れて傘を広げましょう. 人の目に当たるよ. むやみに傘を開かないよ. 傘は遊び道具でないよ.」
- ③タイトル「傘の使い方」／禁止・指導「そうやね. ケンカもダメやけどお友だちに尖った所を向けると危ないね」「傘は雨が降ってきたらお空に向かってさしてね」
- ④タイトル「雨が降っていないときは…」／示範・実技指導「子どもたちに実際にやってもらったりして,

正しい持ち方を確認していきます.」

- ⑤タイトル「雨が降ってきたらどうする？」・禁止・指導「横に向いてさしたり, 少しお友だちとの間を空けてから傘をさすとよかったんだね」

表 4-2 場面 13「歯磨き中に走る」に関する回答の要約(タイトルと結語)

- ①タイトル「おっと 危ない ハブラシ君」／禁止・指導「絶対にハブラシを口にくわえたまま歩いちゃダメだよ. こうやって, ハブラシはコップに入れて運ぼうね.」
- ②タイトル「転んだら, どうなる？」／禁止・指導「歯みがきをする時は, 絶対走ってはいけないよ. これから気をつけてね.」
- ③タイトル「歯ブラシくわえて走っちゃや〜よ」／約束「今日からみんなもハブラシをくわえないようにしましょうね. 約束だよ.」
- ④タイトル「くわえて走るとあぶない」／示範・指導「皆も歯みがきの時は歯ブラシをくわえたまま走らないでね. 年齢が大きい子によって, その他の危険を伝える.」
- ⑤タイトル「歯ブラシはコップに入れて歩こうね」／約束「とても危険なことなのでクラスの中で, 歯ぶらしはコップに入れて歩くことを約束する機会を持ち, 絵を表示し促していく.」
- ⑥タイトル「危ない! 歯ぶらしを口に入れたまま走らないで」／禁止・指導「歯ぶらしは手で持って, ゆっくり歩いてから片づけてね」
- ⑦タイトル「座ってしようね」／禁止・指導「口の中に入っていた歯ブラシがノドの奥に刺さって大きなケガになったりするんだよ. 歯みがきは座ってしようね.」

表 5-2 場面 16「床にハサミ」に関する回答の要約(タイトルと結語)

- ①タイトル「何か落ちているよ」／禁止・実技指導「足に刺さったら痛いよねえ.」「じゃあお片付けしようか」
- ②タイトル「あぶない！」／約束「みんながけがしない様に約束守って使おうね.」

- ③タイトル「お片付けしないと危ないよ」／禁止・指導「使った物はきちんと片付けよう。特にハサミなどは危ないので、元の場所にお片付けしようね。」
- ④タイトル「危ない物を使う時には考えよう」／禁止・指導「ハサミは尖っていて危ないから、使ったままにしないで元の場所に片付けようね」
- ⑤タイトル「使ったら片付けましょう」／禁止・指導「ハサミは危ないものだから忘れずに片付けしましょうね。」

表 6-2 場面 17「集団でなわとび」に関する回答の要約（タイトルと結語）

- ①タイトル「なわとびの練習の仕方」／禁止・指導「なわとびをしている子に近づかない。」
- ②タイトル「大好きな縄跳びで気をつけること」／禁止・指導「跳んでいる子の縄が顔に当たったりするよね。気をつけましょうね。」
- ③タイトル「なわとびは楽しいけれど、危ないよ」／禁止・指導「後ろの子がなわとびしてる子に近づかない!」「跳んでいる子は周りに誰もいないことを確かめてから跳ぶといいよね」
- ④タイトル「なわとびの練習中」／禁止・指導「友だちがなわとびしている時は、近くに行かないで離れて遊ぼうね」
- ⑤タイトル「危ないよ、ストップ」／禁止・指導「なわとびをするコーナー、自由に走り回れるコーナーというふうにスペースを確保して遊ぶことを気づかせる。その方が安全だということを考えさせる。」

表 7-2 場面 21「チャンバラ遊び」に関する回答の要約（タイトルと結語）

- ①タイトル「チラシバトルレンジャー」／約束「剣はお友達の顔に向けないこと。もし目に当たってしまったら見えなくなることもあるよ! 剣は絶対に人に向けない! お約束だね!」
- ②タイトル「これからどうなるかな?」／禁止・指導「これしたら大丈夫かな～痛くないかな～ってお友だちの事考えながら遊ぼうね。」
- ③タイトル「チャンバラごっこだ～!!」／禁止・指導「顔に当たったりすると危ないね。目に刺さったりする

と、目が見えなくなるかもしれないね。遊ぶのは楽しいけれど、気を付けなければいけないね。」

- ④タイトル「剣の戦いごっこは楽しいけれど」／禁止・指導「絶対に目に入れるような、顔の近くで振り回さないようにしましょうね。」「叩かれると嫌だよ。だから強く叩くのも止めようね。」
- ⑤タイトル「戦いごっこ」／禁止・指導「お友達のお顔には絶対に当ててはダメだよ」

表 8-2. 場面 23「4人で食事中」に関する回答の要約（タイトルと結語）

- ①タイトル「楽しい給食」／禁止・指導「手はひざに置いて待っているといいね」
- ②タイトル「おいしい給食! 楽しく食べよう!」／禁止・指導「おはしやスプーンは使わない時にはケースの中に片付けておくと壊れないし、自分やお友だちに刺さったりしないよね」
- ③タイトル「おはしは机の上に!!」／禁止・指導「おはしさん怒ると〇〇ちゃんに痛いことするから置いておこうね。」
- ④タイトル「はしで遊ぶと危ないよ」／禁止・指導「お箸を振りまわしたりすると、お友だちや自分に当たったり、目に刺さって危ないから止めようね」
- ⑤タイトル「みんなで食べると楽しいね」／禁止・実技指導「こんな持ち方をしていて、手を動かしたり、振り回したりすると近くに座っている子の目や耳に入ったりして危ないです。みんなで楽しく給食を食べるためにも、おはしは右手にきちんと持って、正しい姿勢で食べましょうね。」
- ⑥タイトル「楽しいお食事タイム」／禁止・指導「箸やフォークの正しい持ち方は知っているかな」

表 9-2. 場面 27「座ったイスでブラブラ」に関する回答の要約（タイトルと結語）

- ①タイトル「おととととと…」／禁止・指導「ちゃんと座らんとあかんで。」
- ②タイトル「イスの座り方」／禁止・指導「イスに座って遊ぶと危ないからきちんと座ろうね。」
- ③タイトル「足はペタンコ」／禁止・指導「椅子に座る時は、足は床にペタンしてくっつけて座ろう

- ね、そうすれば、引っくり返らないよね。」
- ④タイトル「イスで遊ぶのは危ないよ！」／禁止・指導「イスは机にくっついて座れるようにきちんと置いて正しく座るようにしようね。」
- ⑤タイトル「正しく椅子に座りましょうね」／禁止・指導「手をグーにしてお腹と机の間に入るくらい椅子を前に出して正しく座りましょうね。」
- ⑥タイトル「きちんと座りましょうね」／示範・実技指導「未満児（1歳児）では何度注意をうながしても、なかなか理解できず同じ行動をくり返すので（言われた時だけはするのを止めますが）ケガのないよう注意を払い、子どもごとイスをひっくり返してみても体験させることもある。」
- ⑦タイトル「イスに座った時の危険」／示範・実技指導「下にして床に付けておくと危なくないよね。そして待っている時は、手をおひざにしていると怪我をしないし、お行儀がいいですよ。わかったかな。」
- ⑧タイトル「このままだとどうなるの？」／禁止・指導「そうだね、今みんなが言ってくれたことをこれからも守ってね」
- ⑨タイトル「どんな座り方がいいのかな？」／禁止・指導「もしこの手が離れたら後ろにガタンって倒れちゃうよね。倒れたら頭打っちゃうよ。怪我しちゃうよね。」
- 「〇〇ちゃんにもぶつかっちゃうよ。お友達にもケガさせちゃうね。」

表 10-2. 場面 32「水筒を振り回す」に関する回答の要約（タイトルと結語）

- ①タイトル「ぶんぶんぶんっ」／示範・実技指導「手で持ったり、首にかければお友だちに当たらないよね。みんな出来るかな？」
- ②タイトル「水筒の危険」／禁止・指導「振り回すと当たって怪我をするから危ないね。だから手に大事に持って歩くことが大事だね。」
- ③タイトル「振り回したら危ないよ」／禁止・指導「振り回さないようにしようね」
- ④タイトル「あらビックリ!! いつも使っている物が!! こんなに危険なものになっちゃうんだよ」／示範・実技指導「水筒のひもを首から肩の方にまわしてかけると、両手も空いて使えるし、人に当たらないのでいいと思います。みんなもまわりをちょっと気にしながら水筒をかけて持って歩いて下さいね。」

- ⑤タイトル「水筒ふりまわし場面～危険がいっぱい～」／示範・実技指導「ひもを肩から斜めに下げて歩くといいですね。みんな守って下さいね。」
- ⑥タイトル「どうやって持つといいかな」／禁止・指導「振り回さないでしっかり持つか、肩からかけて歩くと危なくないね。」
- ⑦タイトル「人も水筒も怪我するよ!!」／禁止・指導「水筒を振り回すと危ないよ。お友達に当たると、お友達が怪我するよ。それに、水筒こわれたら大変だね。大事にしようね。」
- ⑧タイトル「水筒はどうやって持つのかな？」／禁止・指導「水筒を持ってくる時は周りを見ながら手で正しく持つんだよ」
- ⑨タイトル「振り回すと危ないよ!!」／示範・実技指導「水筒の持ち方は手で持つのではなく、首からかけるようにして歩くといいと思いますので、みんなも守って下さいね。」

表 11-2. 場面 33「ブランコ遊びと傍観」に関する回答の要約（タイトルと結語）

- ①タイトル「ブランコの前は危ないよ」
指導「ブランコの近くは通ったら危ないね。じゃあ、先生が危なくないようにブランコのまわりに線を描くから、その中には入らないようにしようね。」
- ②タイトル「ブランコ大好き! どうしたらいいのかな？」
指導「自分でも怪我しないように気を付けるけど、小さい子や忘れてる子にはみんな教えてあげてね」
- ③タイトル「ブランコ遊びでのお約束」
指導「ブランコ遊びしているお友達の前や後ろは、通らないようにしようね。」
- ④タイトル「ブランコは楽しく乗ろうね。」／約束「①ブランコの近くは絶対に通りません。②線の後ろに並んで待っている。③向こう側のブランコに乗りたかったら向こう側の線で待ちます等のルールを子どもたちと考え話し合っていて決めていきます。」

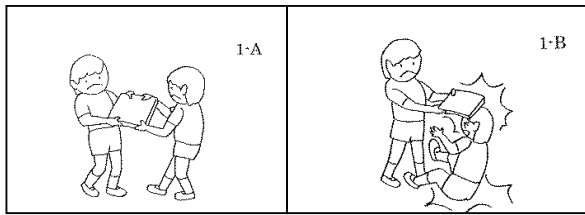
- ⑤タイトル「ゆれるブランコあぶないよ」／禁止・指導「お友だちがブランコ乗っている時には、危なくないように離れて順番待とうね！」
- ⑥タイトル「順番を守って気を付けて遊べるかな？」／禁止・指導「皆が怪我しないように約束を守って遊ぼうね」と図を指しながら話をします。
- ⑦タイトル「飛び出し注意!!」／約束「ブランコの前（柵の中）は入らず外を通るという事をしっかり押さえてから…」みんなも大好きなブランコ、約束を守って遊ぼうね！」
- ⑧タイトル「ブランコ大好き！ どうしたらいいのかな？」／禁止・指導「自分でも怪我しないように気を付けるけど、小さい子や忘れてる子にはみんなで教えてあげてね」
- ⑦タイトル「すべるとどうなる？」／禁止・指導「みんなでお約束や順番を守って楽しく滑り台で遊ぼうね。」
- ⑧タイトル「すべり台で、安全に楽しく遊んで、みんな仲よし!!」／約束「滑り台は、階段から昇って順番に遊ぼうね」「滑る所からは昇らない」「みんな、お約束だよ!」

表 12-2. 場面 38「すべり台で向かい合う」に関する回答の要約（タイトルと結語）

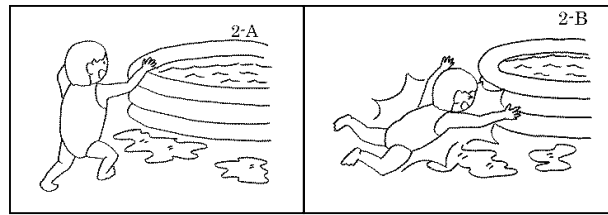
- ①タイトル「すべり台、大丈夫かな？」／約束「滑ったらすぐにどく、逆さ登りはしない。お約束が守れれば、怪我をしないよね。」
- ②タイトル「すべり台の反対登りは止めようね」／禁止・指導「すべり台は反対から登ると危ないよ。お友達とぶつかるから止めようね。」
- ③タイトル「約束守ろうね」／約束「園ではすべり台は下から登らないことを約束している。」（全園児一緒に遊べる場所にあるので、すべり台に興味を持ち始めたころから、順番を守る、上に立たない、下からは登らないことを繰り返し言葉がけます。）
- ④タイトル「あぶないよ どいて!!」／約束「みんなも反対から登ったりしないでね。約束できる？もし誰かがうっかり登ったらダメだよって優しく教えてあげてね」
- ⑤タイトル「すべり台、下から登ると危ないね」／禁止・指導「すべり台を下から登ると滑って転んじゃうかもしれないから危ないね。」「下から登ると、上から滑ってくる子にぶつかっちゃうから危ないね。」
- ⑥タイトル「すべり台危なくないかな？」／禁止・指導「上からすべる時に、下にお友だちがいたら、滑らないで“ボク今からすべるからどいてね”って言って、お友だちがどいてから滑ろうね。」

附票

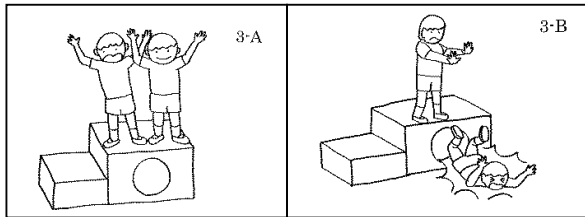
場面 1



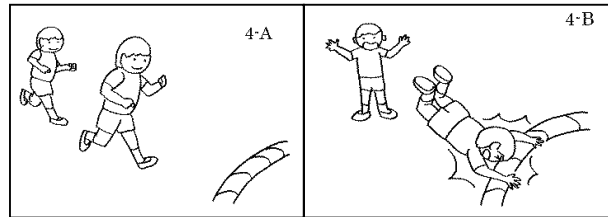
場面 2



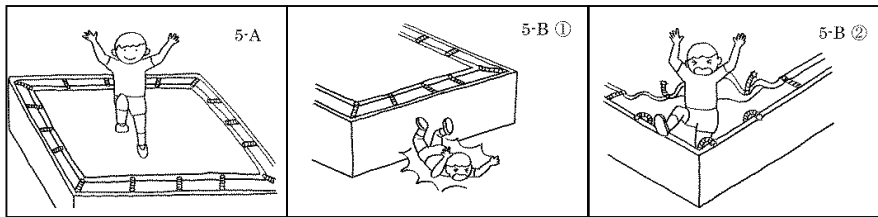
場面 3



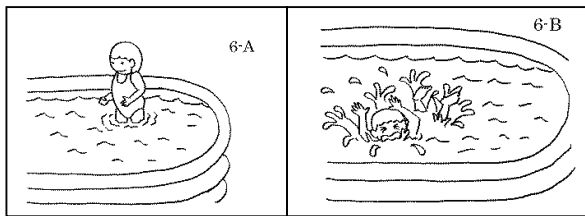
場面 4



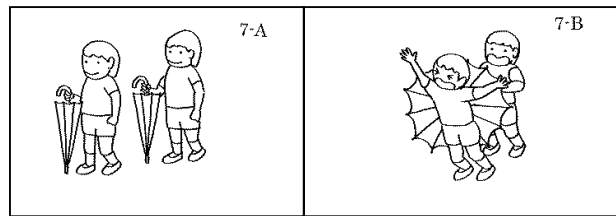
場面 5



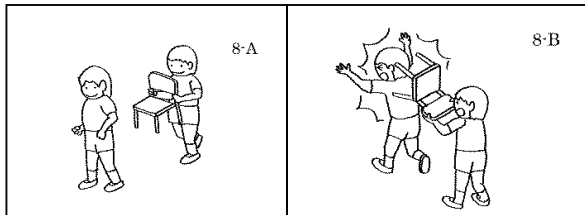
場面 6



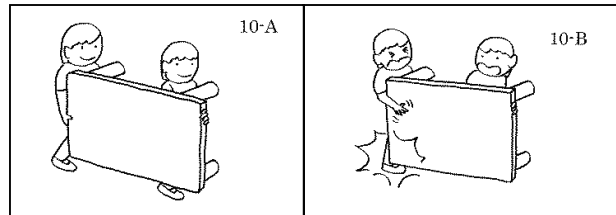
場面 7



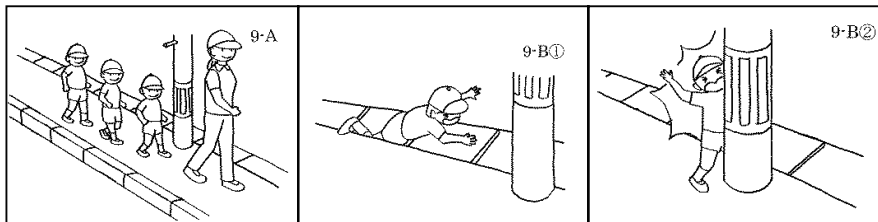
場面 8



場面 10

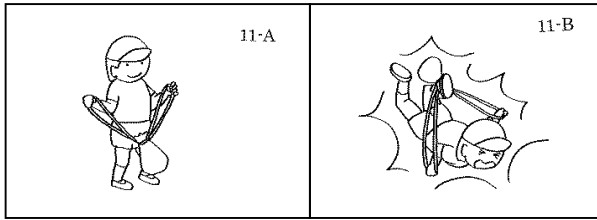


場面 9

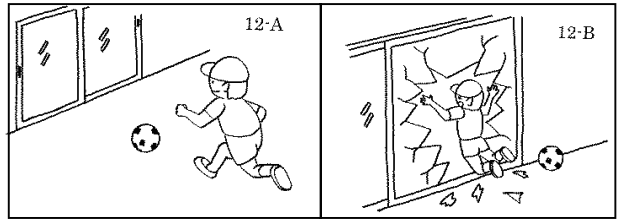


附票

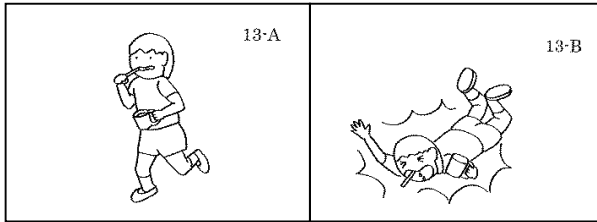
場面 11



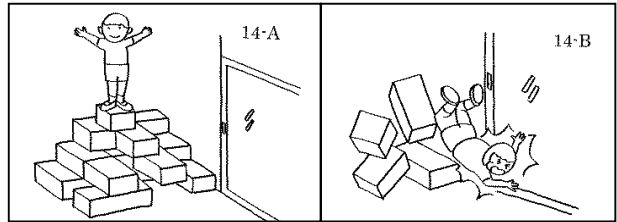
場面 12



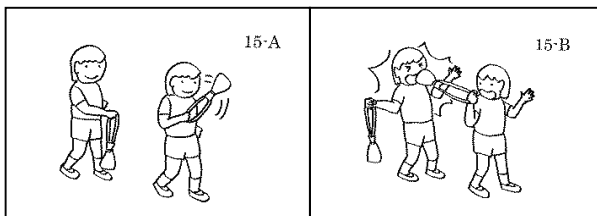
場面 13



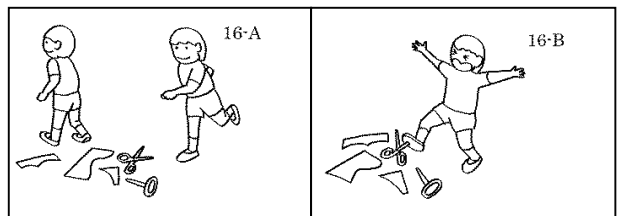
場面 14



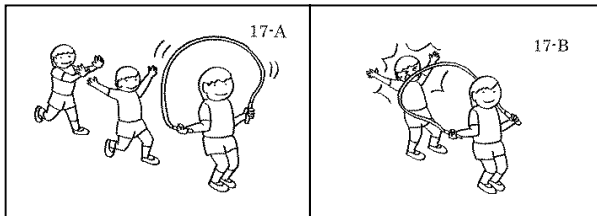
場面 15



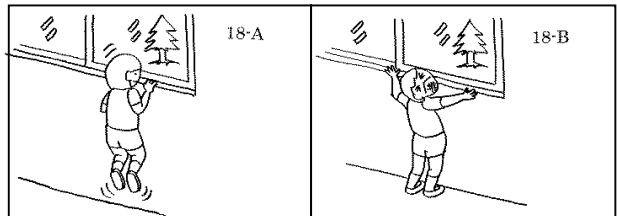
場面 16



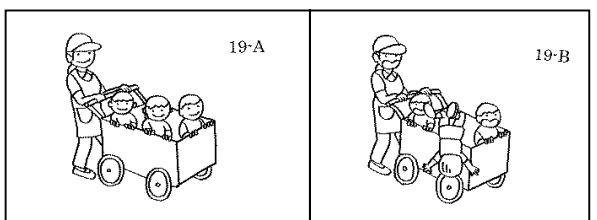
場面 17



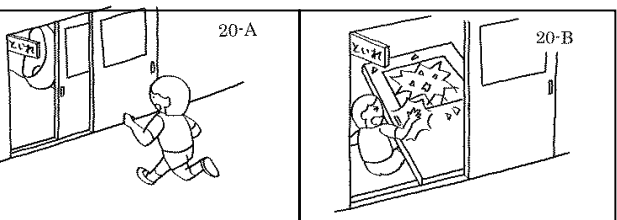
場面 18



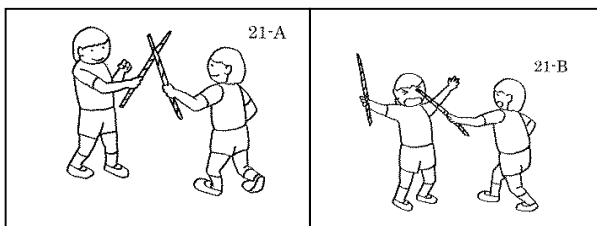
場面 19



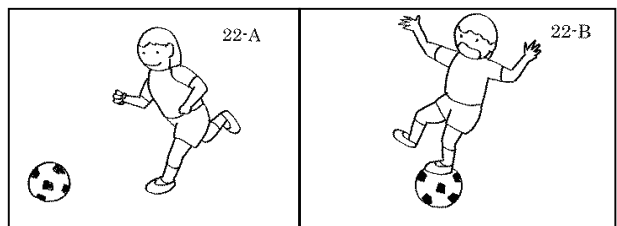
場面 20



場面 21

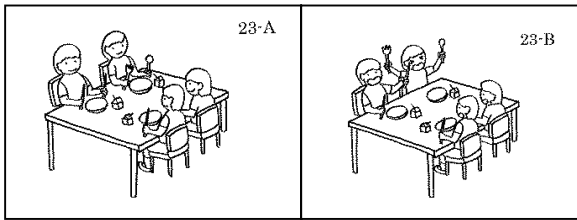


場面 22

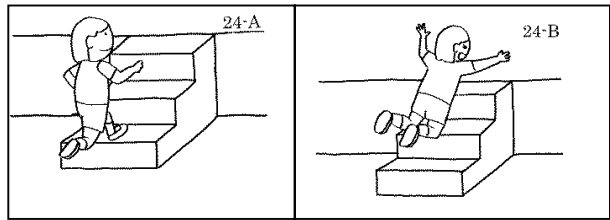


附票

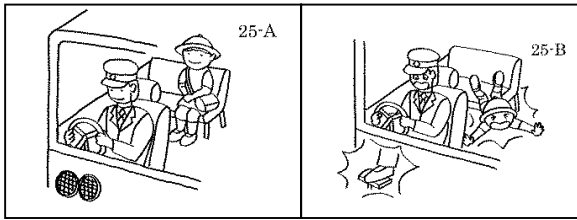
場面 23



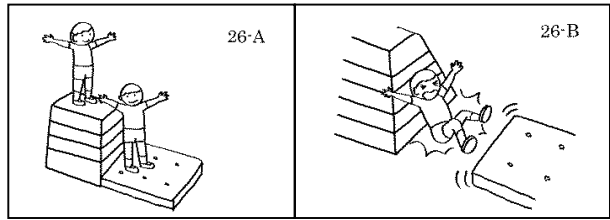
場面 24



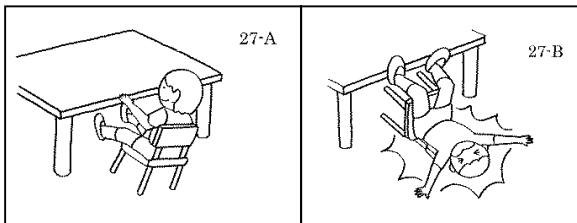
場面 25



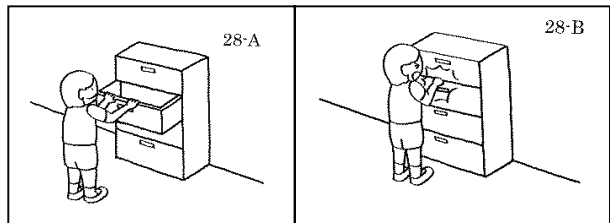
場面 26



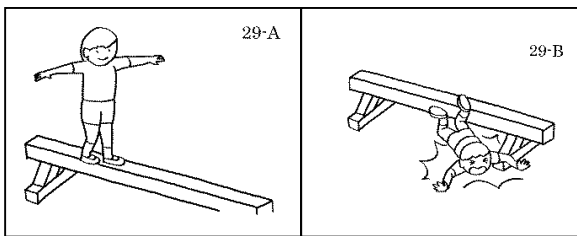
場面 27



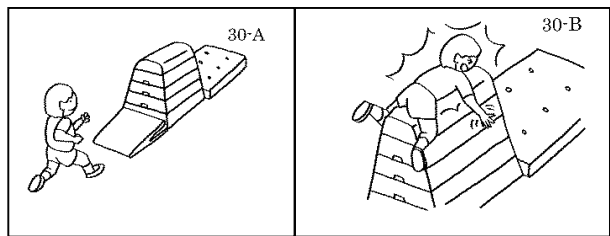
場面 28



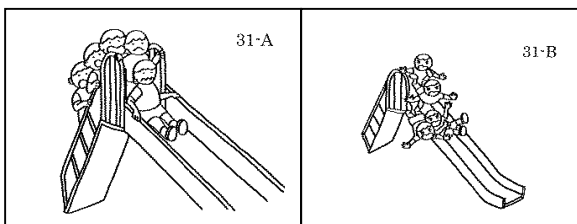
場面 29



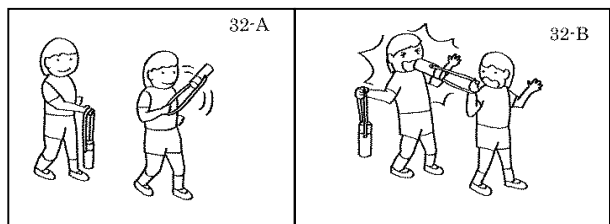
場面 30



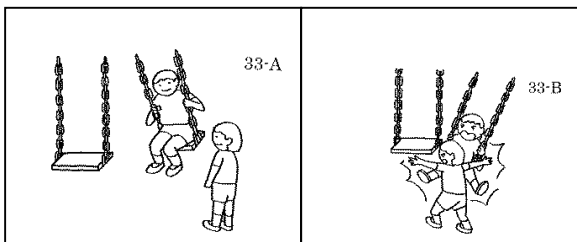
場面 31



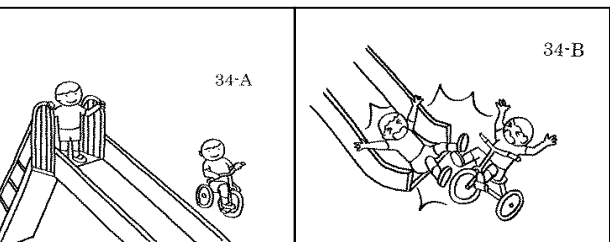
場面 32



場面 33

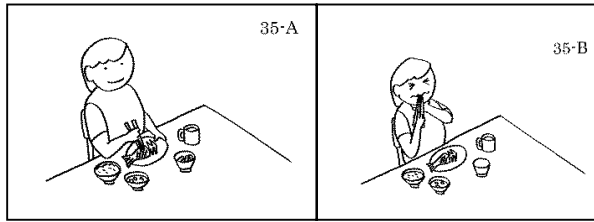


場面 34

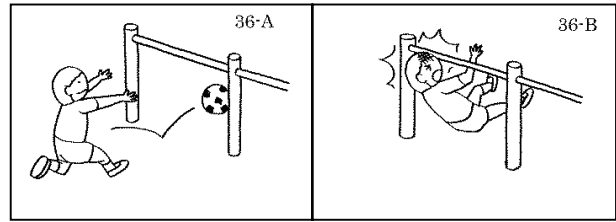


附票

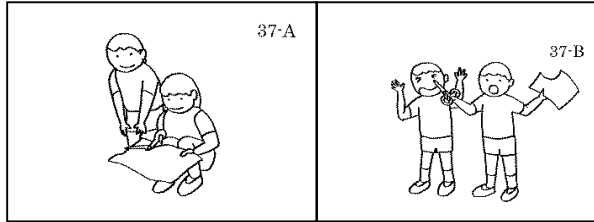
場面 35



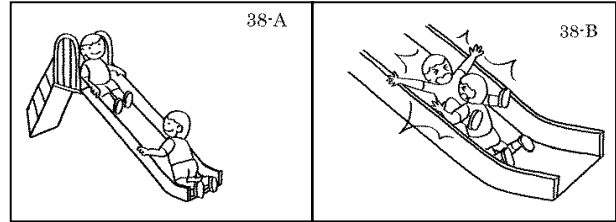
場面 36



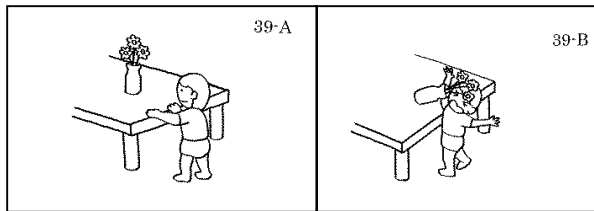
場面 37



場面 38



場面 39



場面 40

